

令和元年度 大阪府立むらの高等支援学校 第三回 学校運営協議会記録

日 時：令和2年1月28日（火）15：00～17：00

司 会：教頭

出席者：学校運営協議会委員（5名）

大阪国際大学（教授）

㈱モンアタッシェ（代表取締役）

大阪知的障害者雇用促進建物サービス事業協同組合（事務局次長）

北河内西障害者就業・生活支援センター（センター長）

本校PTA（会長）

校長 事務局（8名）

1 資料の確認および次第説明（教頭）

2 校長挨拶

2年生研修旅行の紹介。協議についてご意見・ご提言の本日の協議へのお願い。

3 報告

① 「令和元年度学校教育自己診断の実施と結果」について（首席）

資料に基づいて結果の分析を行い、今後の課題について報告をした。

② 授業参観アンケートの集計結果報告（支援部長）

資料に基づいて集計結果とその内容について報告をした。

③ 「令和元年度学校経営計画及び学校評価」について（校長）

今年度の評価について報告をした。

④ 「令和2年度学校経営計画（案）」について（校長）

来年度の学校経営計画について説明をした。

4 協議

A委員：むらの5年目となり素晴らしい学校になってきているが、今回は自己診断を含めた今年度の学校経営計画の質問、感想などお願いしたい。

B委員：先生方の自己評価が厳しい。生徒の将来の就労に関しての話があまり出てこなかった。将来の仕事に関しても関心を持って欲しい。

C委員：保護者からの否定的回答の%が上位にある「学校の指導に共感できる」に対して肯定的回答の上位に「個別の支援」があり、乖離を感じる。これは指導が厳しいと捉えているのか。反対に厳しくしてほしいということなのか？

事務局：生徒指導に関しては、卒業後の社会的常識に沿って細やかな注意・指導を行っていることから、生徒によっては戸惑うこともあり、保護者にその点を説明し、理解していただけている一方、少し厳しいのではないかという意見をいただいている事実もある。

事務局：昨年度、生徒指導に関して否定的回答が多かったことから、保護者向けにむらの高等支援学校の校則を配布し、理解をしていただく契機とした。また登下校中の携帯電話・スマホの使用を限定していることについて、保護者からの問い合わせもあり、現在生徒指導部で検討中である。

開校当初に携帯電話・スマホの使用を限定した経緯については生徒に説明している。

D委員：相談できる先生がいるという回答が、学年が上がるごとに増えていることは評価できるが、一方で具体的にこういうことが相談しにくいなどの事例があればあげていただきたい。また自己評価で事例検討会と学年教科連絡会の開催を7回から5回に軽減した積極的な点は業務削減の取り組みとして「△」ではなく「○」ではないか。

事務局：回答欄に自由記述欄を設けていないので、具体的事例の提示はない。

校長：事例検討会と学年教科連絡会の開催を7回から5回に軽減したことを「△」評価としたが、前向きな対応だと考えている。

E委員：生徒自身が学び知識を得ることが楽しいと思えるような言葉かけと学習をお願いしたい。中学からの取り組みを引き継ぐ形で「個別の指導計画」を作成し、それをPDCAサイクルで実践されているのであれば、その取り組みがわかる様な会議をしてもらえれば良いと思う。

また学校生活も含め、生徒・教員がゆとりを感じられる様な仕組みを取り入れてもらえたらと感じている。

A委員：今年度、むらのを見学した本校の大学生にとっては、生徒が明るい表情で授業を受け教員も良い表情で授業を行なっているところが見られ、内容のある2時間だった。また生徒さんがしっかりと授業の説明を行うなど、学生の支援学校に対するイメージが変わった。支援学校教員が様々なことにチャレンジし、実践している様子にも驚いた様だ。

先日、見せていただいた専門学科成果発表会では3年間の取り組みの集大成を見せてもらうことができ、その内容に感心した。

生徒指導がある意味、厳しい様に思えるが、将来的なことも考えた指導でもあり、アンケートの数字に現れないところも考慮する必要があるのでは。

D委員：新任教員が研修のために観察する授業については、その指定は可能か？会議時間のタイムリミットを17時と指定されているが、仕事の量が変わらないのであれば、9時～17時の中でできる様になったのか。2つの会議を一つに合理化したのか。具体的にどの様な対応をしているのか。

校長：観察する授業の指定については問題がなければ、アイディアとして考えてみる。会議については議長が時間を17時設定であることを確認し、議事の進行に参加者に配慮を求める様に言うようになった。

事務局：早く終わろうとする意識は教員にも醸成される様になり、議題については事前に回覧する様にしている。分掌会議で集まる先生方の意見も聞いておきたい。

事務局：学年会議が延びることもあり仕方ないこともあり、スムーズに会議は進めていきたいが、時間に拘るとやりにい面もある。

事務局：バランスをとることが大事だと考えている。できることできないことはあるが総枠を伝えて、細かいところは各チームに意識をもってもらっている。

A委員：支援学校として学校の時程が生徒をサポートする時間設定になっており、授業時間内に会議を設定できないので放課後になり時間を取られやすくなってしまう現状が支援学校にはある。

D委員：会社員と教職員の仕事の違いは理解できる。ただ教職員アンケート43番「本校では教職員間で日々の教育活動における問題意識や悩みについて、相談できる組織である。」の否定的回答が39.1%あるのは、相談する時間がないのか、それともできないのか。

事務局：首席としての立場として気がつけば行う様にしているが、職員室の空気感を作れる所まではいっておらず、日々の業務に追われる感じはある。

B委員：学校の様に人に対する問題については、割り切って解決することは難しく、働き方改革で対処できることにも限られたものになるのではないかな。

A委員：学校の17時以降の電話対応はどの様になっているのか。

事務局：今は対応しているが、段々と時間制限という流れになるのではないかな。

E委員：何から何まで急を要する要件でもないのに、保護者も要不要を考えての対応が必要ではないのかと思う。

C委員：「中期的目標-4 学校の組織力向上」に示されている同僚性とはどのような意味合いかな。

事務局：民間企業のように係長・部長などいる組織と異なり、学校は校長・教頭・事務長以外はほとんど横並びの組織であるが、管理職が言わない限り何もしないのでではなく、先輩後輩・ベテラン新任が互いに情報共有しながら、相互に資質を高め合う学校職場という考えを示した。

5 承認手続き

A委員：5年目となりむらの高等支援の土台が固まりつつあり、先生方の連携が高まり、成果が上がってきている様に感じる。

その他、安心メールは保護者全員登録となったこともあり、HPに関しては外部発信用としていることも確認した。

令和2年度の学校経営計画及び学校評価（案）について、特に異論はないので、次年度の「学校経営計画」を承認する。

事務局：今回の意見を参考に、今後も取り組んでいきたい。

6 校長挨拶

委員としての任期などについて。

7 事務局より

今回の協議会の内容については後日確認していただいた後にHPにアップする。任期や次年度のおおよその日程などを説明して、閉会。